

第1回 佐賀県総合運動場等整備基本計画検討委員会 議事要旨

▶開催日時

平成28年5月30日(月) 13:00～17:00

▶開催場所

佐賀県総合運動場 陸上競技場 役員室

▶出席者

委員：石橋委員(NPO 法人佐賀県放課後児童クラブ連絡会 理事長)、
岸川委員(鳥栖市スポーツ推進委員)、
小早川委員(久光製薬(株) 久光製薬スプリングス 副部長)、
今委員(フリーランス・プランナー)、
坂元委員(佐賀大学文化教育学部 教授)、
竹原委員((株)サガン・ドリームス 代表取締役社長)、
田部委員((株)JTB 総合研究所 コンサルティング第三部長)、
原田委員(早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)、
東島委員((公財)佐賀県体育協会 理事長)、
藤井委員((一社)佐賀県障がい者スポーツ協会 指導員)

事務局：白井文化・スポーツ交流局長、原スポーツ課長、スポーツ課各担当

関係課：政策課、消防防災課、財政課、さが創生推進課、
国民体育大会・全国障害者スポーツ大会準備室、観光課、障害福祉課、
都市計画課、建築住宅課施設整備室、佐賀土木事務所、保健体育課

▶内容

- 1 開会
- 2 あいさつ(文化・スポーツ交流局長)
- 3 委員紹介
- 4 説明事項
 - (1) 委員会設置要綱について
 - ・事務局より資料1(委員会設置要綱について)の説明。
 - ・委員からの意見・質問なし。
 - (2) 検討の進め方について
 - ・事務局より資料2(検討の進め方について)の説明。
 - ・委員からの意見・質問なし。

(3) 佐賀県総合運動場等の現状と課題について

- ・事務局より資料3（佐賀県総合運動場等の現状と課題について）の説明。
- ・委員からの意見・質問なし。
- ・説明後に現地視察（総合運動場陸上競技場、水泳場、補助競技場、球技場）、総合体育館）

5 委員長選出

- ・委員長として、坂元委員が選出される。

6 議事事項

(1) 施設整備について

【坂元委員長】

- ・施設整備というテーマで、整備エリアと整備の方向性についてご意見いただきたい。
- ・予算のこともあり、新設ありきでの議論はできないが、平成35年に開催される国民体育大会や全国障害者スポーツ大会、また、大会後のレガシーを考えた場合、今の施設では対応できないようであれば、施設の新設といった提案もしていければと考えている。
- ・まずは、整備エリアについてご意見をお伺いしたい。総合運動場や総合体育館のエリアは県内外からのアクセスがよく、非常に便利な場所にあることから、キャンプなどで使用したチームなどからの評判がいいと聞いている。施設を整備する場所という視点でご意見をお願いしたい。

【小早川委員】

- ・施設の場所を考えるのであれば、国内のトッププレーヤーにとってのアクセスなのか、県内の利用者にとってのアクセスなのかをしっかりと考える必要がある。
- ・全日本女子バレーの合宿は、施設が良いことに加え、新幹線の駅から近いという理由で鹿児島県の川内で行っている。
- ・佐賀県には新幹線が停まる駅もあるので、そのような点も考えた上で施設の場所を考えた方がよい。

【今委員】

- ・施設の場所を考える際には、この場所が選手にとって都合がいい場所なのか、観る人にとって都合がいいのかを考える必要がある。
- ・佐賀県の中でどこに施設があれば一番集客ができるのかを考えれば、場所は自ずと決まってくる。

【坂元委員長】

- ・施設の場所については、スポーツを『する』人にとって都合がよい場所なのか、また、

スポーツを『観る』人にとって都合がよい場所なのかがポイントのようである。

【東島委員】

- ・ 総合運動場・総合体育館のエリアは、平日であっても、学生が練習をしていたり、一般のランナーがランニングコースを走ったりと、多くの人が利用している。
- ・ このように色々な運動施設が集まったエリアは佐賀県内には他にない。佐賀県の選手にとっては一番の施設であり、場所であると思っている。
- ・ 現在の総合体育館は 2,000 席程度の観客席しかないが、久光さんがバレーの試合をする場合、観客席の数の問題や、選手の動線の問題、諸室の問題、収納の問題がある。体育館を使用する競技団体と話をし、バレー、バスケット、卓球、柔道、剣道、バトミントン、なぎなたなどの競技団体からは、国体を控えたこの機会に、ぜひ新しいアリーナを建設してもらいたいという要望が出てきている。
- ・ 陸上競技場についてもほとんど諸室などがなかったことから、この機会に改修をしてもらいたいと考えている。

【今委員】

- ・ 新しいアリーナについては、施設の現状から考えると、佐賀県の競技を『する』人にとっては重要な問題であり、今回検討すべき。
- ・ 運営側の意見としては、スポーツを『する』人にとっていい施設だから、試合の運営をする人にとってもいい施設であるということではなく、建設の際に運営のことまで考えていないと、大会時に余計にお金がかかって使いにくい施設となる場合がある。
- ・ 総合体育館を見てすごいと思ったのは、体操専用の施設があること。柔道場や剣道場を持っている自治体はたくさんあるが、体操専用の施設を持っている自治体はほとんど聞いたことがない。この施設を使いたいという人は日本全国たくさんいる。そういった意味で考えると、今の総合体育館は『育成・普及の場』としては素晴らしい施設である。
- ・ ただし、そういった施設だから、『観る』スポーツとしてふさわしい場所では決してない。施設整備の方向性をこれから決めるのであれば、『する』スポーツを考えるのか、「観る」スポーツを考えるのかを最初にきちんと決めておかないと、中途半端になってしまう。

【坂元委員長】

- ・ 現存の施設を改修し、『観る』スポーツに対応させるように施設を充実させていくという考えもあると思うが、いかがでしょうか。

【今委員】

- ・『する』スポーツのための施設であれば、トレーニング場を充実させるなどして、選手にとって使いやすいようにしてやる必要がある。『観る』スポーツのための施設であれば、最低でもフロアにラインが入ってはいけぬ。

【坂元委員長】

- ・『観る』スポーツや県民の健康を考えるような運動施設を考えるのであれば、今の総合体育館を改修するのではなく、新たな施設が必要ということを考えなければいけぬようだ。

【今委員】

- ・将来のビジョンを持って、誰をターゲットにした施設を作るのかをしっかりと決めておかなければ、使いやすい施設ができません。

【田部委員】

- ・今回の整備計画は国体のためにという一面があると思うが、それであれば国体の施設基準を満たすだけの改修を行えばいいことになる。今回、このように検討委員会を設置するという事は、それだけではないからだと思うので、そうであれば、佐賀県としてスポーツを使って何をやりたいのかを整理する必要がある。
- ・県民の健康のためなのか、人を集めてお金を落としてもらうためなのかで整備する施設が違ってくる。佐賀県として育成型でいきたいのであれば、練習環境をしっかりと整えればいいことになるし、そうではなく人を呼びたいということであれば、また違った施設となる。
- ・ただし、人を呼んでお金を回収できるような施設は難しいとおもっておいた方がよい。海外の例で言うと、ラグビーワールドカップのチケットには食事を付けるなどの付加価値を付けて高く売るといったビジネスが成立していた。そういったことを考えるのであれば、施設にはパーティー会場が必要になる。
- ・自分としては、市町の施設が練習の会場になり、県の施設は県でしかできないことをやるべきだと思う。みんながあそこで試合をやりたいと思うような施設が県の施設であり、それは『観る』スポーツに対応した施設になる。市町の施設より一回り大きいだけが県の施設ではない。
- ・これから施設に必要な条件を整理することで、県の求める施設が自ずと見えてくるのではないかと。

【坂元委員長】

- ・『観る』スポーツに対応した施設となると、現有施設の改修でいいのか、それとも全く違った場所に新しい施設を建設した方がいいのか。

【田部委員】

- ・先ほどの意見は施設整備を考える際の方向性の話なので、場所の視点からの発言ではない。

【今委員】

- ・場所については『する』スポーツを考えた施設であればどこでもよい。『観る』スポーツを考えた施設であれば、交通アクセス、商業圏などをしっかりと考える必要がでてくる。

【田部委員】

- ・場所にもよるが、『観る』スポーツを考えた施設にするのであれば、駐車場のこともしっかりと考える必要がある。
- ・現在の総合運動場・総合体育館のエリアはアクセスも良く、このままでいいと思う。大切なのは、そこにどういったビジョンでどういった施設を作るかを決めることである。

【坂元委員長】

- ・県内の事情にも詳しく、利用者でもある方から、交通アクセスについてご意見ありませんか。

【岸川委員】

- ・今日は高速道路を使ってこちらに来たが、高速から総合運動場に来て右折ができないため真っ直ぐに入ることができなかった。
- ・この施設の駐車場は、サガン鳥栖などの試合がある時は必ず不足する。

【今委員】

- ・駐車場は、『する』人だけを想定した数で設計されていて、『観る』人のことまで考えた数になっていない。

【坂元委員長】

- ・今の駐車場数はどれくらいか。

【指定管理者】

- ・約850台になる。

【坂元委員長】

- ・この台数であれば『観る』人のことまで考えた数にはなっていないのかもしれない。
- ・先ほどの話にもあったように、この施設のアクセスは他の県の施設に比べていいものになっているのは間違いないと思う。スポーツツーリズムの観点から、原田先生ご意見をお願いします。

【原田委員】

- ・施設の検討にあたっては、今後、人口減少が進み、都市間競争が激化する中で、佐賀県がどういった立ち位置でスポーツを進めていくのかを整理する必要があると考えている。
- ・佐賀県の場合は国体を控えており、施設を考える大きなチャンスである。ただし、これまでの国体の失敗は使えない施設を残してきたことにある。その最たる例が陸上競技場である。
- ・今回の整備は国体のためではなく、国体後のことをしっかりと考えておかなければならない。それがないと、陸上競技場のチケットで一番高く売れる場所に来賓室を作ったりして、使えない施設になってしまう可能性がある。
- ・球技場が天然芝から人工芝になると聞いたが、人工芝にすると年間通して朝から晩まで使え、キャンプにも使えることから、将来的にはサガン鳥栖のユースの拠点としても使えるなどの発想が広がる。そうなってくると合宿所が必要になるからホテルを作ろうというアイデアに繋がることにもなる。
- ・オリンピックの水泳競技場は、オリンピック終了後に観客席を壊してレジャープールとして使うことが多い。この機会にレジャープールを作るということも考えていいのではないか。また、50mプールを残す必要があるので、それであれば、スポーツコミッションが大会を誘致して使っていくことになる。
- ・今回の整備を考える際のキーワードになるのは、『スケールメリット』と『プロフィットセンター』と考えている。
- ・日本全国に総合型地域スポーツクラブが3,500ほどあるが、ほとんどが補助金で活動している。その中で指定管理者になっているのは全体の4%程度であり、補助金がなくなると活動できなくなるクラブがほとんどである。
- ・プロフィットセンターとは、自分たちでお金を稼いで、そのお金をどう使っていくのかを考える組織のことで、そのためにはどうしたらいいのかということスポーツ庁と話をしている。
- ・佐賀県が非常にラッキーなのは、久光のバレーボール、サガン鳥栖のサッカー、将来的にはバスケットボールチームなどが考えられることであり、うまくやれば、プロフィットセンターができるようになる。
- ・その観点から考えると、このまま指定管理でいいのかということも考えなければなら

ないし、施設管理のマネージメントをするためコンセッション方式でやるということも面白い。

- ・それを佐賀県スポーツコミッションが担い、スポーツイベントを引っ張ってくるなどしていけば、施設も回っていくと思うし、その利益でスポーツ振興を行うようにすれば、今回作る計画も生きてくる。

【坂元委員長】

- ・利益を生み出していくという視点で見た場合、整備エリアを今の場所のままでいいのか、空港の近くにしたらいいのかなどの意見があると思う。プロチームの運営を行っている竹原委員いかがでしょうか。

【竹原委員】

- ・プロのチームを運営している立場から言わせてもらおうと、エリアについてはスポーツだけで考えるのではなく、街の活性化のためにどうスポーツを使うのかという考えが必要になる。
- ・自分は「する」という視点よりは、「観る」という視点を先に考えている。この整備基本計画においても、コンセプトをどうするのかを先に決めておかないと、議論が飛んでしまう。
- ・施設は進化する必要がある、そのためには収益性もあげなくてははいけないし、運営もフレキシブルにできるようにしておくことが重要になる。P F Iなどの手法も考える必要がある。
- ・Jリーグのチームでは、埼玉や大阪は決して交通アクセスがいいところにはないが、コンテンツが充実しているからこそ多くのお客さんがスタジアムに足を運んでいる。
- ・サガン鳥栖が使用しているベアスタは、試合が無い時に誰もスタジアムに来ない。しかし、芝生を見ながら食事をするようにするなど、工夫をすれば面白いことができると考えている。

【坂元委員長】

- ・総合運動場や総合体育館があるエリアは、佐賀県の中では便利なところにあり、ここで施設を充実していくことがよいということになる。

【竹原委員】

- ・このエリアを今後発展させていくためにも、佐賀空港と大和 I.C を高速道路で繋いだほうがよい。

【坂元委員長】

- ・今委員より施設整備の方向性に係る資料を作ってもらっている。ご説明をお願いしたい。

【今委員】

- ・最初に施設整備の方向性の議論が大事だと思って、自分の考えを資料にしてきた。
- ・「観る」という視点で考えると必要になる施設が明確になってくる。
- ・自分は B リーグの施設基準を作る仕事に関わっていた関係で、全クラブのアリーナを見たが、何もせずに基準を満たすようなアリーナはほとんどなかった。
- ・Bリーグが 5,000 席を基準としているので、どこも 5,000 をゴールだと思って整備を行っている。プロフィットセンターとして運営を行っていくことを考えると 5,000 席ではやっていけない。5,000 席はあくまでスタートと考えた方がよい。
- ・5,000 席の観客席を作ると 3,000 席の観客席に比べバックヤードが倍になるため、その分を部屋や設備に使うことができるようになる。その分施設は大きくなるが、「観る」スポーツだけでなく、「する」スポーツのことも考えることができる施設となる。
- ・5,000 席をスタートに、「観る」スポーツを普及させ、稼げるようにするために、どこまでやるかを決める必要がある。
- ・「観る」スポーツと「する」スポーツどちらにも対応する施設を作ろうとして、例えばスポーツをするためのフロア数を多く増やしてしまうと、試合などはとても見にくくなってしまう。どちらにも対応できる施設を作るというよりは、両者の中間点で施設を考えた方がよい。
- ・大きな大会を開催すればするほど、必要になる部屋も増えてくるため、最初から常設の部屋として整備しておくことで、大会運営のムダをなくすことができる。

【坂元委員長】

- ・話を聞いていると、総合体育館を改修することには限界がある。
- ・障害者の利用という視点から藤井委員にご意見をお願いしたい。

【藤井委員】

- ・障害がある人であっても、トップの選手になると健常者と変わらない利用になる。
- ・先ほど施設を見て、通路であったり、扉であったり変えていった方がいい個所があったが、シャワー室やロッカー室にベンチを置くなど、ちょっとしたことを変えていけばいい程度なので、大きな改修までは必要ない。
- ・全国障害者スポーツ大会は 10 月に開催されるので、プールは屋内にすることが必要になる。また、屋内にすることで年中練習が出来て、競技力の向上が図れる。

【坂元委員長】

- ・施設整備の方向性について考える際のキーワードとして、何個か資料にあげさせてもらっている。多機能という視点でご意見お願いできないか。

【石橋委員】

- ・子育て支援の立場から委員に入らせてもらっているものとしては、これから高齢者が増えていく中で、稼げる施設のイメージがまだわいていない。
- ・佐賀県の総合計画策定にも関わってきましたが、県民のみなさんの意見としては「安心して生活できる」、「持続可能な生活」ということをよく聞いた。そういったことを考えると、いつまでも健康にスポーツができる環境を作ることが必要である。
- ・「観る」スポーツのためにお金を使って施設を作ることだけでなく、子どもたちがわくわくするような、子どもたちが日常でも楽しめるような施設を作って欲しい。
- ・大きなお金を使って整備するのであれば、大規模な災害が起こった時の防災拠点を考えてもらえると安心できる。
- ・この場所は佐賀県の真ん中にあるので、県内どこからでも子どもたちが集まってくるような魅力ある施設になってもらえればと考えている。

【坂元委員長】

- ・この施設は子どもたちにとっては、どのような施設と感じていますか。

【石橋委員】

- ・子どもが使いにくいというよりは、スポーツをする人にとって使いやすい施設であって、スポーツをしない人にとってはそうではないのかなと感じる。スポーツをしない子どもにとっても楽しめるような、あそびのある施設ができればと思う。

【原田委員】

- ・先ほどの意見を聞いて思い出したが、静岡の知事が音頭をとって、中学生を対象としたスポーツクラブ構想というものがある。これは、地域にバスを走らせて、ラグビーをやりたい子どもを集めて地域のクラブに連れていくというもので、そこでヤマハのトップリーグの選手が指導を行っている。
- ・例えば、同じように学童保育の子どもたちを集めてスポーツをさせるといった仕組みも面白いのではないか。そのバスの代金は補助金を考えるのではなく、稼いだお金で運営する仕組みにするというイメージである。
- ・静岡は静岡モデルを作っているので、佐賀県は佐賀モデルをこの場所で行っていくことは十分可能である。
- ・堺のナショナルトレーニングセンターに大阪のサッカー協会が人工芝2面とホテルを敷地内に作っているが、これがプロフィットセンターである。総合運動場には人工芝

のグラウンドが今度できるので、管理棟をホテルにすることで十分可能になると考えている。そういったイノベティブなことをすることが可能な施設である。

- ・また、稼げる施設を考えると、施設の中にカフェやレストランを作ったり、駐車場を有料化するなどして、お金をとって、それを還元する仕組みもよい。
- ・シドニーやロンドンのオリンピック会場は大会終了後に観客席を撤去している。国体のために陸上競技場を作るのではなく、国体終了後にはサッカー専用スタジアムにするように考えてもいいのではないかと。陸上競技場は補助競技場を立派にして2種公認にしておけば使える。
- ・国体終了後は陸上の1種競技場が必要な大会は開催されることはほぼないので、国体終了後にはプロフィットセンターとなるような仕組みも議論していきたい。

【坂元委員長】

- ・陸上競技場は1種の公認がとれなくなると聞いていますが、それはなぜですか。

【事務局】

- ・日本陸連の施設基準の変更に伴い、これまでは暫定措置として公認がとれていたが、今年度でその措置がなくなるため、1種から2種の競技場になってしまう。

【坂元委員長】

- ・国体を開催するためには1種の競技場への改修は必要になるということのようです。
- ・佐賀県は未普及競技も大切にしている。その点に関しご意見いただけないか。

【東島委員】

- ・総合運動場の中に、ボクシング場・フェンシング場、エアライフル射撃場があるが、どこに施設があるのかわからないといった声を聞く。施設を考える際はどこで競技がやられているのかわかるように場所などを考えて欲しい。未普及競技のトレーニングができる施設もあわせて考えて欲しい。
- ・話は変わるが、総合体育館が作られた時には、仮称佐賀県武道館という名前で、武道関係の競技ができるコンセプトだった。その当時はよかったが、今となっては諸室が不足するなどの問題が出てきている。色々な競技ができるようにと、各競技団体からも要望があっているため、その点は考慮してもらいたい。

【今委員】

- ・諸室は少ないが、あれだけ武道関係の練習ができる施設は非常にいいと思う。大きな大会を開催することになったとしても、剣道場や柔道場などを諸室として使用することもできる。

【坂元委員長】

- ・ 総合体育館の採光はどうか。

【東島委員】

- ・ 採光のことはあまり聞いたことがないが、空調の話はよく聞く。大競技場の空調の吹き出し口が観客の後ろにあるため、競技場を冷やすのに時間がかかる。

【坂元委員長】

- ・ 最近、スタジアムに長くお客さんを留ませるために、スタジアムに観覧車を作ったり、バーベキューができるようにしたり、レストランを作ったりと、スポーツ以外にも楽しめる場所を考えるとところが増えてきている。このような切り口でご意見お願いできないか。

【田部委員】

- ・ 人を楽しませるといった視点から話をすると、ダメになってしまった温泉地は、それぞれの旅館だけで人を楽しませようとしていた。それに対し、湯布院などは、個々ではなく、町全体で取り組んだことで全体を活性化できている。
- ・ 同じように施設だけで考えていくと、施設が古くなってしまうと人が集まらなくなってしまう。1つの施設ではなく、街全体で考えていく必要があるのではないか。

【竹原委員】

- ・ スタジアムを満員にしようと思った時に、サッカーだけでいつでも満員は難しいので、初めてサッカーに来た人や、サッカーを観に来ていない人がスタジアムに足を運ぶような仕組みを考えている。その施設だけでなく、街づくりの中でどう施設を位置づけるのが重要になる。

【今委員】

- ・ アリーナでもスタジアムでも、バスケットやサッカーを好きな人ばかりだけで埋めるのは難しい。好きでない人をどう呼び込むかの仕掛けが、儲かる施設かどうかになってくる。そのためには人を引き付けるものは必要になる。

【坂元委員長】

- ・ 観る施設といったご意見を多くいただいているので、後は人を引き付けるための仕掛けをどうするかを考えていく必要がある。そこは、具体的にこの委員会でアイデアを出していければと考えている。

- ・施設の拡張の可能性はあるのか。

【白井局長】

- ・現時点で周辺の土地を購入して拡張するなど具体的には考えていないが、その点については今後の意見を踏まえながら考える必要がある。

【坂元委員長】

- ・ロッククライミングやスカッシュなど、今はできない競技ができる施設が欲しいという話になれば、敷地の拡張などの提言もしていければと考えている。
- ・この施設は大雨が降った時に、水の通り道になって、施設が浸水すると聞いたことがあるが、その点について教えていただきたい。

【指定管理者】

- ・去年は施設が冠水することはなかったが、何年かに1度の大雨時には陸上競技場が冠水してしまうことがある。

【今委員】

- ・観る施設として考えた場合に、施設が浸水するなどは考えられない。

【坂元委員長】

- ・防災の拠点として考える時に、その施設が冠水しては問題である。その点については、次回にでも話ができればと思っている。
- ・総合体育館についてですが、観客席の数は他県の施設に比べてどうか。

【東島委員】

- ・平成19年に全国高校総体が開催されたが、その際も観客席は仮設で作ったほどで、観客席としては少ない。

【今委員】

- ・総合体育館は武道系競技の練習場としては日本でも有数の拠点とあっていい。特に体操場まであるのは珍しい。ただし、大競技場だけみると、全国的には下から数えたほうがいいかもしれない。

【坂元委員長】

- ・これまでの話からすると、「観る」スポーツを考えると、総合体育館の大競技場では難しいのではないかという問題があるので、新設アリーナの検討が必要である。この件

については次回の会議の時にまた話ができればと思う。

- また、陸上競技場についても、今のメインスタンドで不足する機能をどう補うかなどの意見があるので、その点についても次回に話をさせてもらいたいと思っている。
- 本日はありがとうございました。